

【平成28年度 第1回提出】業務棚卸評価シート

1 事業の概要と実績

No.	2			シート作成者	-	-	
事務事業名	救急業務	事務区分	自治事務	部課かい名	消防署 警備第一・二課		
事業の目的	円滑な救急活動による市民の生命及び身体の保護を図る。	事業の目標		救急活動技術の高度化を図り、質の高い救急サービスを継続的に提供する。			
事業の概要	救急出動要請に対応し傷病者に適切な応急処置を実施し迅速に医療機関へ搬送する。						
対象	市民等		事業の性質区分	定例・定型		業務計画	■
指標	救急現場到着平均時間 (医療機関搬送収容時間)						
27年度(第2次実施計画)		28年度(第3次実施計画)		29年度(第3次実施計画)		30年度(第3次実施計画)	
目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
6.1分 (30分)	7.4分 (29.1分)	7.2分 (30分)		7.2分 (30分)		7.2分 (30分)	
		27年度	28年度	29年度	30年度	※金額については1円単位で記入してください	
事業費	実施計画事業費	-	0	0	0		
	予算額	0	0				
	決算額	0					
	執行率						
	従事者数	40.48	46.65				
	職員	40.48	46.65				
	臨時・非常勤等						
財源内訳	特定財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源						

2 事業実施状況に対する評価

事業の必要性	
<p>本市の救急出動件数は平成18年8,905件に対し平成27年10,330件と増加の傾向を推移しており、年齢別の搬送人員を見ると65歳以上の高齢者が約6割を占めている。高齢者人口は、今後も増えることが予想され、救急需要の増大に対応して行く必要がある。市民の安全・安心を支える基盤の業務として安定的に救急サービスを提供する必要がある。</p>	
事業実施状況に対する分析(課題の抽出)	
事業成果	<p>高齢者人口の増加に伴い救急出動件数が増加し、救急現場到着平均時間は当初目標値とした6.1分を達成できなかった。救急出動件数は全国的にも増加傾向にあり、目標値の設定根拠とした神奈川県内の救急現場到着平均時間も延びている。平成25年県平均値8.3分に対し7.5分と下回ることができた。</p> <p>救急需要の増大に対応できるよう救急出動状況の推移を的確に見極めながら、適正な救急出動体制を維持できるよう検討を進めることが課題となっている。</p>
事務効率	<p>・救急救命士の応急処置拡大に象徴されるよう救急隊員は高度な専門的知識と技術を継続して養っていくことが求められているが、常に出動体制を確保する中で、研修や訓練を効果的に実施し救急活動技術の高度化を推進して行くことが課題となっている。</p> <p>・救急需要の増大に伴い消防隊による救急支援出動が増加している現状から、消防車両にも一定の救急資器材を積載し、消防隊員が先に現場到着した際にも有効な応急処置を行えるよう消防隊員の救急活動技術の一層の向上に取り組んでいる。</p>
事業成果及び事務効率に対する評価	
実施手法は効率的かつ効果的であり、成果は今後見込める	

3 今後の事業展開(事務改善)

今後の事業展開(事務改善)	
改善の方向性	27年度の評価を踏まえた28年度以降の取組内容
事業(活動)の効率・成果を高める	<p>救急救命士の応急処置範囲拡大に伴い、救急現場において、より高度な救急活動技術が求められていることから、高度救急資器材の取扱い訓練をはじめとする救急隊員のスキルアップを図る研修や訓練を習熟度に応じて実施し、質の高い救急サービスを提供できるよう救急隊員の救急活動技術を向上させる取り組みを推進する。</p> <p>救急隊と消防隊が同時に出動する救急支援出動の際、消防隊が救急隊より先に現場到着する事案が増えている。こうした現状を踏まえ、消防隊員が傷病者の重症度や緊急度に応じた有効な応急処置を行い救急隊に引き継ぐことで救命率の向上に繋がるよう、消防隊と救急隊の連携活動訓練をはじめとする各種研修や訓練を計画的に実施し、救急業務を兼任する消防隊員の救急活動技術の向上を図る。</p>

4 事業を構成する活動に係る改善内容

[illegible][illegible][illegible][illegible]